

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲第 968 号	氏名	山崎 佐枝子
論文審査担当者	主査 本田 孝行 副査 天野 純 ・ 岡元 和文		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>当院に入院した末梢動脈疾患 (peripheral arterial disease: PAD) 120 例を解析対象とした。PAD は足関節上腕血圧比 (ankle brachial index: ABI) 0.9 以下と定義した。透析例と心不全入院の既往のある例は除外した。brain natriuretic peptide (BNP) 高値に関わる因子について多変量解析を行い、オッズ比を求めた。</p> <p>その結果、山崎佐枝子は以下の点を明らかにした。</p> <p>PAD120 名の平均の左室駆出率は $65.5 \pm 13.6\%$、平均 BNP は 133.68 ± 225.1 pg/mL であった。120 例のうち、BNP 100 pg/mL 以上の症例は 36 人 (30%) であった。BNP 100 pg/mL 以上の群では、100 pg/mL 未満の群と比べ、有意に年齢が高く、心房細動が多く、高血圧の合併が多かった。また拡張期血圧が高く、腎機能が悪く、HDL コレステロール値が低かった。一方、冠動脈病変の有無や左室駆出率 (ejection fraction: EF) は両群に有意差を認めなかった。拡張早期の左室流入血流速度 (E)、E と僧帽弁輪部速度 (e') の比 (E/e')、肺静脈の拡張期順行性血流速度 (PVF-D) と左房径が BNP 高値群で有意に高かった。BNP 100 pg/mL 以上と各因子の相関係数を求めると、P 値が有意かつ相関係数が 0.3 以上のものは、年齢、推算糸球体濾過量 (estimated glomerular filtration ratio: eGFR)、E/e' であった。BNP 100 pg/mL 以上を予測する因子を単変量のロジスティック回帰分析で解析すると、年齢、eGFR、E/e' が有意であった。E/e' (4 分位) と年齢、性別、eGFR、EF を共変量に用いて、BNP 100 pg/mL 以上の予測可能性を多重ロジスティック回帰分析により検討した結果、E/e' 高値のみが有意な予測因子であった (オッズ比 2.310、95%信頼区間 1.371–3.891、$p=0.002$)。</p> <p>これらの結果から、PAD には心不全の既往がなくても BNP が高い症例が含まれていることが分かった。BNP が高い理由として、高血圧や心房細動を背景にした拡張障害がみられることが示唆された。本研究は、PAD の管理においては、BNP を測定し、心機能障害の有無をスクリーニングすることが非常に重要であることを示した臨床上重要な研究であり、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			